

## ■貯蓄と投資の目的

一般的に、貯蓄の目的は、衣・食・住など日常生活を送るために必要なお金を常に用意しておくことだと思います。一方、投資の目的は、潤いのある生活を送るためにお金を殖やすことといえるでしょう。そう考えれば、貯蓄だけで生活を送ることはできそうですが、心に余裕のある人生を過ごすことは難しいのかもしれない。そこで、潤いのある生活を送るために、“お金を働いてもらう”(お金を殖やす)具体的な方法を考えてみます。

## ■低金利と付き合っはいけない

日本は1990年代後半から物価が下落基調となり、日本銀行は利下げにより景気回復を目指しました。しかし、あまり効果がみられなかったため、安定的に2%の物価目標を超えるまで、市中に出回るお金の量を増やす政策(量的緩和政策)に転じ、その後にマイナス金利政策を導入しました。現在も物価の基調は弱いことから、当面は緩和政策が継続され、低金利が続くとみられます。

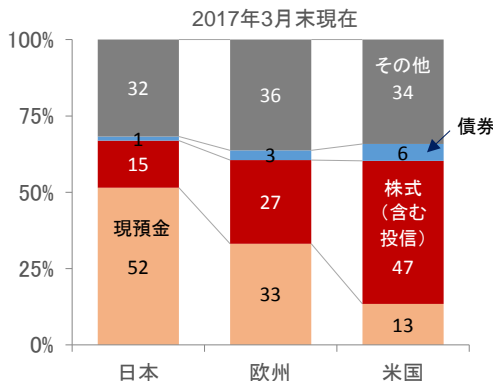
このような状況下、預貯金だけでお金を殖やすことが難しいことから、“お金を働いてもらう”方法として、証券投資にお金を振り向けることの重要性が高まっているのです。

日本の消費者物価指数と10年国債利回り(図1)  
2011年1月～2017年8月、月次

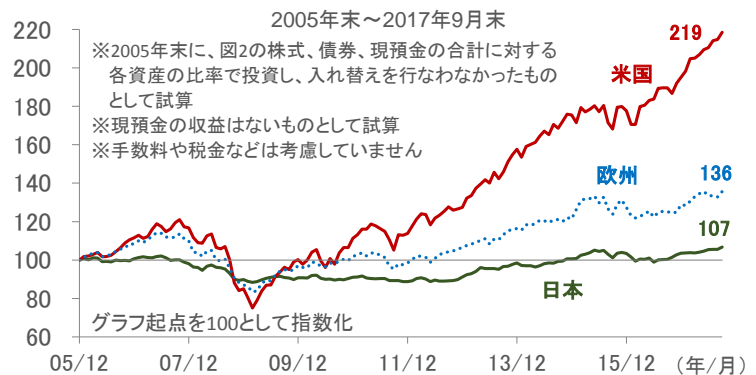
## ■米国や欧州では、積極的に証券投資している

日本の家計金融資産の内訳をみると、現預金が50%以上ですが、株式(含む投信)や債券の証券投資は16%にとどまっています。一方、米国は日本と対照的で、証券投資は50%超、欧州でも30%となっています(図2)。結果として、米欧は証券投資の比率が高いことなどから、収益性に大きな差が出ています(図3)。米では、古くから確定拠出年金制度などの普及が進み、「適度なリスク」を取ることで相応の収益が期待できることを体験しているのです。人生100年時代といわれる中、貯蓄として単にお金を保有するだけでなく、積極的に証券投資を行なって収益性を高めていくことが、“お金を働いてもらう”一つの方法だといえるでしょう。

日本と米国、欧州の家計金融資産の内訳(図2)



自国の株式や債券などに投資した場合のシミュレーション(図3)



<図3で使用した指数(日本、米国、欧州の順)> \*すべて現地通貨ベース

株式: TOPIX(配当込)、S&P500指数(配当込)、STOCKS600トータルターン指数 債券: NOMURA-BPI総合、Bloomberg Barclays US Aggregate Total Return Value Unhedged USD、Bloomberg Barclays Pan-European Aggregate Total Return Index Value Unhedged EUR

(日本銀行や信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

\*上記は過去のものおよび試算であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが日銀のマイナス金利政策と資産運用などについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。